

【衆議院選挙】

- ◆ “改憲・戦争する国・原発再稼働容認” 勢力—議席 3分の2 を超える
- ◆ 自民党を勝たせるために、民進党を解体した“永久戦犯”前原誠司・小池百合子は即刻政界から退陣しろ！

◇ 市民と野党が共闘した小選挙区—32勝51敗(51敗の候補者の内22人が比例で復活)

◇ 共産党—野党共闘のために67小選挙区で候補者を降ろす

◇ 「立憲民主党」が誕生・躍進 保守2大政党制（自民・公明 or 希望・維新）を阻止

10月22日に投開票された衆議院選挙は、“改憲・戦争する国・原発再稼働容認”勢力が3分の2を超えるという結果になりました。投票日の「出口」調査では、「安倍政権を信頼していない」が51%（共同通信）なのに、何で与党が勝利をしたのか、私は残念でなりません。

与党が勝利をした最大の原因は、民進党の解体です。自民党を勝たせるために、民進党を解体した“永久戦犯”前原誠司・小池百合子両氏は、即刻退陣すべきです。2人の政治理念である「非自民・非共産」は、本心は「親自民・反共産」なのです。そのためには、何としても、与党と野党の一騎打ちを阻止しなければならなかったのです。

しかし、市民と野党が共闘した小選挙区は83選挙区。勝敗は野党の32勝51敗（51敗の候補者の内22人が比例で復活）でした。全部の選挙区で市民と野党が共闘した選挙区では、北海道では5勝7敗、新潟県では3勝2敗、沖縄県では3勝1敗と健闘しました。地方新聞も、「選挙区すべてで実施した共産党との共闘が奏功」（「毎日新聞」北海道版23日付）、「野党共闘 1強に風穴」「野党共闘の効果証明」（「新潟日報」23日付と報道しました。もしも、全国全ての小選挙区で市民と野党の共闘が実現していたならば、このような結果にはならなかったでしょう。私は、市民と野党の共闘に、これからも希望をつなぎたいです。

野党分裂の226選挙区 与党が8割勝利

共闘 実現していたら「63選挙区逆転」の試算

「野党分裂型」の226選挙区は全289選挙区の78%を占める。結果は与党183勝、野党43勝と与党側の大勝だった。これに対し、「与野党一騎打ち型」の57選挙区では、与党39勝、野党18勝。分裂型に比べて野党側が善戦した。

野党が分裂した最大の原因は、民進党の分裂だ。民進の前原誠司代表が衆院選前に小池百合子・東京都知事率いる希望の党への合流を表明。民進で立候補を予定していた人とは希望、立憲民主党、無所属に3分裂した。ただ、民進は前原執行部の発足以前、共産党や社民党などとの野党共闘を進めていた。昨年7月の参院選では、32の1人区で野党統一候補を擁立し、11勝という成果を上げていた。

そこで、「立憲、希望、共産、社民、野党系無所属による野党共闘」が成功していれば

ばという仮定のもと、朝日新聞は独自に、各選挙区でのこれらの候補の得票を単純に合算する試算を行った。その結果、「野党分裂型」226選挙区のうち、63選挙区で勝敗が入れ替わり、与党120勝、野党106勝となった。」（「朝日新聞」10月24日付け）

【衆議院選議員選挙 比例代表 東北ブロック】

	自民党	希望の党	立憲民主党	公明党	日本共産党	社民党	日本維新の会(みんなの党)	民進党
今回 (13議席)	5	3	3	1	1	0	0	0
前回 (14議席)	5	0	0	2	1	0	2	4
原発への態度	原発と原発輸出を推進	再稼働容認	再稼働反対	原発と原発輸出を推進	原発即時ゼロ	原発即時ゼロ	再稼働容認	再稼働容認

*政府・与党(自民・公明)は、2030年のベースロード電源で、原発の割合を20~22%と閣議決定。これは、今ある全ての原発を再稼働させることを、国が決定したことです。

【安倍9条改憲NO! 全国市民アクション 11・3国会包囲大行動(東京 永田町)】

